

< 2> ボランティア養成事業 (養成講座)の展開方法をご紹介

< コマの展開方法：見守り・寄り添いの基礎知識 >

正味1.5時間目安

コース 、 、 共通

目標(ねらい)：見守り・寄り添いボランティアへの期待と、期待に応える活躍のイメージ、基本的な姿勢等を知る
メニュー提供ボランティア等にとっては子どもの居場所ボランティアの基礎知識的な位置づけで

内容(課題)：子どもが、安心感や居場所感を感じられるような姿勢、接し方
：子どもの様子を把握するための視点や対処の考え方

形態(学習方法) 例

* 以下のような展開での、体験的な理解を促す学習方法

遊びの体験(内容の気づきを促すのに適当な素材で実施、事前の簡単なレクチャー含む)

振り返りを通した個人・グループでの、学習内容への気づき、その共有(グループでのカードワーク等)

講師による、受講者の気づきの整理、体系化。ミニ講義

前段 開講式・ガイダンス(ねらい、期待等含む)

0分 活躍の場(子どもの居場所の事業展開、子ども達の様子等)紹介

10分 見守り・寄り添いボランティア活躍のイメージ(期待、本時の学習課題)

20分 仲立ちとしての遊び活用(安心感、居場所感提供の基礎技術)

a. 遊びを通して、心身の距離感が縮まる体験(講師、スタッフによる、受講者対象の遊びの展開)

b. 遊びを仲立ちとすることの有効性への気づき、その共有(受講生の振り返りをまとめつつ)

c. 仲立ちとしての遊び活用のポイント解説

50分 **子どもが認められていると思えるサイン**

a. 傾聴の意義とポイント、子どもが自分が受け入れられていると感じられる会話のポイント

b. 上記ポイントを踏まえた、会話のトライアル(ペア)。振り返りの共有(3ペアで、あるいは、ペアを解消して別の人と)

70分 **子どもを立体的に捉える視点の確認**

a. 子どもの頃へのさかのぼり体験(講師のリードで、20才前後 7.8才と小学校低学年程度まで段階的に思い返す)

b. 今の子どもとの比較(今の子どもの気の毒な部分、気になる部分、昔とかわからない部分、わからない部分等)

c. 立体的に今の子どもを捉えるための複数の視点及び視点の活かし方、問題等への対応の仕方の解説

90分 **2コマ目のガイダンス**

展開例

報告書該当ページ

P8

P16

P17

P18 部分

P21

< (1) コマ目の展開方法：見守り・寄り添いの基礎技術（ポイント・コツ）： 正味1.5時間目安
コース、及び 及び では2-2とどちらか選択

目標(ねらい)：子ども個人や小グループと打ち解けるための仲立ちとして、遊びを活用するための原理・原則を知る

内容(課題)：仲立ちとしての遊び活用の原理(同調、共鳴)・原則(同時発声・同時動作の合図、段階設定)の理解
：対個人、対小集団それぞれ1, 2メニューを提供できるようになる(実践力の獲得)

形態(学習方法) 例

- * 原理・原則については、1コマ目と同様の展開で、体験的な理解を促す
遊びの体験(内容の気づきを促すのに適当な素材で実施、事前の簡単なレクチャー含む)
振り返りを通じた個人・グループでの、学習内容への気づき、その共有(グループでのカードワーク等)
講師による、受講者の気づきの整理、体系化。ミニ講義
- * メニュー提供体験では、次のような展開で、原理・原則の実際の理解を促す
講師、スタッフによる、受講者を対象としたメニューの実演
上記実演で用いた展開案を提示。それを追いながら、原理・原則活用のポイント等振り返り
展開案の読み込みと、受講者同士での提供体験。及び上記 と連動した講師講評

展開例

- 前段 1コマ目の振り返り(アイスブレイクを兼ねた仲立ちの遊び体験と学習内容振り返り等)
- 0分 その場の体験(受講者のペースがそろう遊び展開)や人生の経験の振り返り等から、仲立ちとして遊びが機能するための原理を確認
- 5分 同時発声・同時動作の合図(原則1)の学習
- a. グループに分かれ合図がけ体験(合図役を交代しながら、他のメンバーが合図役の合図に沿ってジャンプ等)
 - b. 合図がけのポイントの共有(数名の感想を聞き取り、それを共有する過程で講師がポイントを確認)
 - c. ポイントを踏まえた再度の合図がけ体験(アーと声を出す等)
- 25分 段階設定(原則2)の学習
- a. 講師、スタッフが、受講生を対象に、難度の高い素材を段階的に展開。展開案等を活用して段階を解説
 - b. 段階設定の意義の確認(多くのメニューを仲立ちとして使いやすくなる、子どもと成功体験を共有しやすい等)
 - c. 講師、スタッフによる難度の高いメニューの実演。それを受けての、受講生の段階設定検討(グループ討議等)
 - d. 上記cの結果を全体で共有(アイデアの評価でなくそれぞれ認めつつ、ひとつのモデルをつくる)。講師リードでモデルの体験
- 55分 仲立ちの遊びメニュー体験
- a. 講師が受講生を対象にメニューを実演(対個人、対小グループ各1つ等)。展開案を使った振り返り(受講生はMEで台本作成)
 - b. ペアで対個人のメニュー提供体験と講師講評
 - c. グループで、対小グループのメニュー提供体験と講師講評
- 90分 現場デビューのガイダンス

報告書該当ページ

P30

P31

< (2) コマ目の展開方法：体験メニュー提供のポイントとコツ >

正味1.5時間目安

コース、及び では2-1とどちらか選択

目標(ねらい)：メニュー提供ボランティアとして、趣味を生かしたメニュー提供の原理・原則を知る

内容(課題)：原理・原則としての「小さな成功体験提供(段階設定)」等の理解

：趣味等をもとに作成した子どもたちの体験メニュー(1つ)を提供できるようになる(実践力の獲得)

形態(学習方法) 例

* 原理・原則については、1コマ目と同様の展開で、体験的な理解を促す

遊びの体験(内容の気づきを促すのに適当な素材で実施、事前の簡単なレクチャー含む)

振り返りを通した個人・グループでの、学習内容への気づき、その共有(グループでのカードワーク等)

講師による、受講者の気づきの整理、体系化。ミニ講義

* 体験メニュープログラム化では、次のような展開で、原理・原則の実際の理解を促す

各受講者(グループ)の趣味の魅力の明確化(グループ討議、もしくは全体のフリーディスカッション的に)

主要な提供対象となる児童層で味わえる、上記のエッセンスの特定(考察 発表 意見交換 確定)

実際に展開される子どもの居場所に沿った(60分×1回等)、上記のプログラム化

前段 1コマ目の振り返り(アイスブレイクを兼ねた遊びを仲立ちとして活用するポイント、子どもの理解の振り返り等)

0分 趣味を生かしたメニュー提供の意義の確認

5分 メニューを通した、小さな成功体験の積み重ねる経験提供

a. 講師、スタッフが、受講生を対象に、小さな成功体験を積み重ねられるメニュー(ニューズ・ツ種目のアソビ等)の展開。

b. 展開案を活用した振り返りをもとに、

c. 小さな成功体験を通した効力感獲得の実際、それらの積み重ねの子ども達にとっての意義を確認

30分 メニューづくりの方法の解説(上記 aを使って等)、メニューづくり実習のガイダンス

40分 メニューづくり実習

a. 趣味等を活かした体験メニューの検討、プログラムの想定(個人、グループどちらでも可)

b. 全体での共有(アイデアの豊富化を目的に。方法は、実演もしくは解説もしくはシート読み、講師はまとめてポイント確認)

90分 現場デビューのガイダンス

・デビューチームを編成する(このことを見越して、上記のグルーピングをすることも有効)

・デビューに至る間での準備の解説、連絡調整等のガイダンス

展開例

報告書該当ページ

P40

< コマ目の展開方法：安心感・一体感づくりの遊び活用法 >

正味1.5時間目安

コース、及びでの追加選択

目標(ねらい)：起の段階(開始・雰囲気づくり)を担当する際の、基本的な支援技術の原理・原則を知る

内容(課題)：原理・原則としての「同時発声・同時動作」、「段階設定」の確認
：実践力の獲得としては、次の2点

- * 実際に起の段階で活用するメニューを2つ程度(それらを組み合わせたプログラム)を覚える
- * 2～4名程度のチームでの、上記メニュー(プログラム)が提供できるようになる。

形態(学習方法) 例

- * 原理・原則については、下記提供体験の事前、事後の解説の中で
- * 提供体験は、以下のような流れで
講師、スタッフによる、受講者を対象としたメニューの実演
上記実演で用いた展開案を提示。それを追いながら、原理・原則活用のポイント等振り返り
展開案の読み込みと、受講者同士での提供体験。及び上記と連動した講師講評

展開例

前段 2コマ目の振り返り(アイスブレイクを兼ねて)

- 0分 起・承・転・結の事業構造の理解(確認)と、起の段階の役割の理解(上記振り返りのアイスブレイクを説明材料にすることも可)
- 10分 同時発声・同時動作、段階設定等メニュー提供の原理・原則の理解(すでに学習したことの振り返り)
- 20分 コミュニケーションの広がり、深まりを想定したメニュー配置(プログラミング)の考え方
- 30分 起の段階のメニュー提供体験
- 講師、スタッフでチームをつくり、受講生を対象に2つ程度のメニューを組み合わせたプログラムを実演。展開案を使った振り返り
 - 講師チームの展開案(に書き加えたメモ)を元に、グループに分かれての、チームとしての展開案(メニュー提供のシナリオ)作成
 - 展開案にもとづいた提供体験(2グループで組み、交互に提供。あるいは、各グループに実施メニューを指定し、それぞれ全体に向けて提供等)
 - 講師講評(講評を聞きながら、グループで作成したものが実際の現場で使える展開案に書き直されるようなイメージ)
- 90分 4コマ目のガイダンス
- * 承段階のメニュー体験(講師とスタッフのチームが、受講者を対象に)
 - * 上記の振り返りを通した、学習項目(できるようになること)の予告

報告書該当ページ

P58
P59
P63

P62を参照

< コマ目展開方法：子どもの育ちを刺激する遊び活用法 >

正味1.5時間目安
コース

目標(ねらい)：承の段階(主体性・協調性を育む)の担当としての、基本的な支援技術の原理・原則を知る

内容(課題)：原理・原則としての「CSSプロセス」の理解
：実践力の獲得としては、次の2点

- * 実際に子どもの居場所で活用する集団活動メニュー(グループゲーム等)を1、2つ覚える
- * 2~4名程度のチームでの、上記プログラムが提供できるようになる。

形態(学習方法) 例

- * 原理・原則については、1コマ目と同様の展開で、体験的な理解を促す
遊びの体験(内容の気づきを促すのに適当な素材で実施、事前の簡単なレクチャー含む)
振り返りを通した個人・グループでの、学習内容への気づき、その共有(グループでのカードワーク等)
講師による、受講者の気づきの整理、体系化。ミニ講義
- * 実践力獲得については、3コマ目と同様の展開で、体験的な理解を促す
講師、スタッフによる、受講者を対象としたメニューの実演
上記実演で用いた展開案を提示。それを追いながら、原理・原則活用のポイント等振り返り
展開案の読み込みと、受講者同士での提供体験。及び上記と連動した講師講評

展開例

- 前段 アイスブレイクとしての、承の段階の体験(講師、スタッフでチームをつくり、受講生を対象にメニューを実演(メニューへのつながりも含めて))
- 0分 起・承・転・結の事業構造における、承の段階の役割の理解(上記の展開案を使った振り返りを通して)
- a. 承の段階の意義とねらい(主体性、協調性をバランス良く刺激する等)
 - b. ねらいの実現のためのメニュー活用の考え方(主体性、協調性が芽生えやすいメニュー、働きかけ方)
- 10分 CSSプロセスの学習
- a. 起の段階で活用できるメニューを使ったCSSPの実演(講師チームで。後出しジャンクで、反応引き出し、それを活かしたポーズ決め等)
 - b. 上記aの展開案を踏まえながら、CSSPの原理・原則と、チームでの活用の実際を解説
- 30分 承の段階のメニュー提供体験
- a. 3コマ目の後段や本時のアイスブレイクとして実施したメニューの展開案を使って説明
 - b. グループでの、上記aの展開案を使った、チームでの展開練習。
 - c. 展開案にもとづいた提供体験(2チームで組み、交互に提供)
 - d. 講師講評(講評を聞きながら、グループで作成したものが実際の現場で使える展開案に書き直されるようなイメージ)
- 90分 振り返りと5コマ目のガイダンス
- * 遊ばせることが目的ではないこと、子どもの成長等の目的を遊びを通して実現することということを強く確認(振り返り)
 - * 5コマ目のガイダンス

報告書該当ページ

P70

P73

< コマ目の展開方法：チームでのプログラム運営のポイント >

正味1.5時間目安

コース

目標(ねらい)：1回のプログラム全体を担当するボランティアとして、必要な知識、技術を知る

内容(課題)：子どもたちの成長や居場所の展開に沿ってメニューを組み立てるためのアレンジの知識、技術
 ：プログラム担当チームの運営の留意点
 ：プログラム運営担当チームとしてのデビュー時のプログラム、及び実施計画ができる(実践力獲得)

形態(学習方法) 例

- * アレンジの知識、技術については、次のような展開で、体験的な理解を促す
 複雑・高難度素材の段階設定体験通した基本的な方法を理解(講師の素材提示 グループで段階を想定 全体で共有等)
 スポーツやクラフトなどを使った、小グループでの成功体験の共有のためのメニュー作り(承の段階を想定)
 アレンジメニューの共有を通した講評
- * プログラム担当チームの運営
 互恵性等の原則に基づいたグループでのディスカッション(原則を示し、小グループで日帰り旅行プランを立てる等)
 人間関係の保ち方、グループ運営の基本の振り返り確認
 小グループでの、実際のプランニング(役割分担等)

展開例

- 前段 アイスブレイクとして、既に体験してきたメニューをアレンジしたものを実施(講師、スタッフでチームをつくり、受講生を対象にメニューを実演)
- 0分 **メニューのアレンジの考え方の確認**
 a. アレンジの意義と、基本的な考え方(上記アイスブレイクの振り返り通して、段階的アレンジ法を確認する等)
 b. アレンジの方法のバリエーションの提示(上付け方式、分割方式等)
- 20分 **運営チームの良好な人間関係づくり**
 a. 意志決定の原則や、任せ - 任せられる関係の大切さの提示
 b. ボランティアの人間関係維持の原則の確認(今この時の関係、互恵性等)
- 30分 **アレンジの試行(グループで。上記 a.bで学習したことの試行を兼ねる)**
 a. 3人程度で、これまで体験してきたメニューの展開案等をもとにしたアレンジの検討
 b. 他グループとの検討結果の交換。その様子を踏まえた講師のまとめ
- 60分 **1回の起・承・転・結プログラム作成**
 a. 実際に現場デビューするチームで、1回のプログラム全体を計画する
 b. 役割分担等も含め、実施までの手順についても確定する
- 90分 **運営チームとしての現場デビューガイダンス**
 * 上記 のプランの不足点等へのアドバイス
 * スケジュール確認等

報告書該当ページ

P88

P82

< コマ目の展開方法：振り返り演習 >

正味1.5時間目安
コース

目標(ねらい)：5コマ目までの学習成果を確認し、現場での活動の準備をする

内容(課題)：起、承段階のメニュー提供のシミュレーションを通じた、展開案等の完成度を高める
：プログラム運営担当チームとしてのデビュー時のプログラム、及び実施計画の完成度を高める

形態(学習方法)

- * 展開案を持ち寄り、試行する。講師は、その様子を観察し、必要なアドバイスを行う
- * プログラム運営チームで、準備等の確認、打合せを行う。講師は、その様子を観察し、必要なアドバイスを行う

皆さんの子どもの居場所を展開されているという長所を活かす観点から6コマ目を次のように分散実施することも可能

- ：2コマ目修了後、実際の子どもの居場所のプログラム
 - [1] 下記[2]の仮デビュー当日のプログラム開始前に2コマ目の学習内容の振り返り、現場のガイダンス
 - [2] 見守り・寄り添いボランティアと同様な形で、仮デビュー
 - [3] 仮デビュー当日のプログラム終了後等に30分程度の現場経験の振り返り、講師からのアドバイス
- ：3コマ目修了後、上記と同様な形([1]～[3]の流れで)で、起の段階のメニュー提供に絞った現場での提供実習
- ：4コマ目修了後、上記と同様な流れで、承の段階のメニュー提供に絞った現場での提供実習
- ：5コマ目修了後に、チームとしてデビューするプログラムの準備、運営に関するミーティングに絞って実施